

〇〇してみました世界のフィールド

アフリカ熱帯雨林の 狩猟採集民とたばこ

ほし うちつ 宇潔
民博 プロジェクト研究員



シガレットをお土産にしてきました

シガレットとお酒をもらって盛り上がり、これから踊ろうという人びととわたし (2010年)

見知らぬ土地へ単身赴き、調査を始めるには緊張がともなう。しかし、現地の人びととよい関係を築くことができれば百人力だし、毎日の調査も楽しいものになる。本号ではお土産から広がったフィールドでの交流について紹介する。

たばこは、一部のフィールドワーカーにとって、すこし特別な意味をもつものかもしれない。「現地に行くときはたばこを大量に買って持っていき、調査するときに配ったら喜ばれるし、いろいろなきが聞きやすくなる」。初めてアフリカへ渡航する際、わたしが先輩や先生からよく言われていたことばだ。わたしはそのアドバイスに従い、シガレット(紙巻きタバコ)を大量に購入し、ピグミー系狩猟採集民バカ族が暮らすカメルーン共和国南東部の熱帯雨林へと赴いた。そしてほどなくして、わたしは彼らがたばこ好きだということを知ることになったのだ。わたし専用のトイレはシガレットを二本渡せばすぐ作ってもらえたと声をかけられ、まるで「たばこ」というあだ名を付けられた気分にもなったのだが、一緒にたばこを吸うことで、短時間で現地の人びとと親しくなることができた。



シガレット2本で作ってもらったわたし専用のトイレ (2010年)

最初で最後の噛みたばこ

そもそもわたしがバカ族の人びとについて調査を始めたのは、バカ族の女性たちの刺青に惹かれてのことだった。そのため、フィールドでは女性たちと一緒にいる時間が圧倒的に多かったのだが、女性たちのグループに入れてもらったばかりのころ、彼女らがときどき緑色の粉を口に入れるのを見かけた。それが何なのか気になり、「それ、何？」と下手なバカ語で聞いてみた。「ンダコ」。彼女らのひとりが微笑みながら答えてくれた。その単語はわたしが最初に覚えたもので、粉の正体はたばこだということがすぐにわかった。たばこを食べるのかと驚くわたしを見ながら、女性たちは何やら笑いながら話し合っていた。

がら男性たちに囲まれてタバコを吸うことが多くなり、まわりの女性たちからも「たばこならあなたたち男性同士でどうぞ」とからかわれるほどだった。歩くシガレット倉庫のわたしは、手持ちに余裕があるときは一人本ずつ渡していたが、人数もついでいないときは、一本を数人で共有して吸ってもらった。

しかし、いくら大量に買い込んで、フィールドワークが長期になれば、シガレットは予想以上に早くなってしまふ。在庫切れが近づくと、わたしは残ったたばこを誰にあげればよいか決めかねて、かなりストレスを感じた。ついに二本もなくなったときには、いよいよどうしようかと悩んだ。しかし、あらたな発見はまさにそのときに訪れたのだ。

「ごめんなさい、シガレットはもうないんです」。たばこを要求する男性に、申し訳なく断ったのだが、その男性の答えは「あ、そう」とあっさりしたもので、怒る様子もなく、いつものように雑談を続けてくれた。数日後、どこから手に入れたのか、その男性がシガレットを吸いながらやってきた。「さあ、どうぞ」。男性は吸いかけの自分のシガレットをくれた。「あなたのシガレットはもうないのでしょ? だからあげるよ」。驚くわたしに、男性はさり気なくそう言った。その瞬間、わたしは自分も彼らにとってモノを共有する対象(仲間)となったことに気づいたのだ。調査のために喫煙を始め、しかもフィールドでしか喫煙しない「ニセ喫煙者」のわたしだが、そのときの感動は今でもよく覚えている。

彼女らは畑からたばこの葉を採って、火を付けた薪まきでそれを囲み、乾燥させ始めた。葉が乾くと手のひらにのせ、指でつぶして細かくし、そこへ灰を混ぜてさらにすりつぶす。わたしがその制作過程をあわてて野帳に書きとめていると、完成した粉をもってきてくれた。「食べてみて、食べてみて」と、開いた野帳にその粉をのせるのだ。わたしは思わぬ展開にドキドキしつつも、さっそく口に入れてみた。舌が火を付けたようにヒリヒリして、思わずつばを飲み込んでしまった。それを見た女性たちは、とたんに表情を変え、口をそろえて「吐き出しなさい」と言った。わたしはすぐに粉を吐きだし、何度もうがいをしたが、喉から胃にかけてしびれるような不快感が三日以上消えなかった。こうしてわたしは、噛みたばこというものは食べるものではなく、つばも飲まずに舌や歯の下に置いて味わうものだと知ったのだ。



噛みたばこを楽しみながら雑談する女性たち(2013年)



たばこの葉を薪の火で乾燥させる (2010年)

喫煙仲間
噛みたばこを楽しむのはバカ族では女性のみで、多くの男性は煙を楽しむ、一般的なたばこを吸っていた。畑から採ったたばこの葉で作る手巻きたばこや、市販のシガレットは男性たちの好物である。あの強烈な体験以来、噛みたばこを敬遠するようになったわたしは、女性でありな

カメルーン ★



シガレットをもらって格好良く吸う男性たち (2013年)